

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書（職域肝炎ウイルス陽性者・両立支援対策）

群馬県における職域での肝炎ウイルス検査受検及び受療促進の取り組み

研究分担者：柿崎 暁 群馬大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科 客員教授  
研究協力者：戸島 洋貴 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター 病院講師

**研究要旨：**就労世代の治療促進のため、職域、とくに加入者数の多い全国健康保険協会（協会けんぽ）を対象に肝炎検査受検・受療の啓発活動を行う。令和元年度に、研究班版簡易リーフレットによる受診勧奨を群馬支部において水平展開し、簡易版導入施設は、肝炎検査数が前年度比較で5.23倍、受検率が4.93倍に増加し、非導入施設（受検数0.71倍、受検率0.68倍）と比較し、有意に肝炎検査受検数・受検率が増加することを示した。本年度は、新たに協会けんぽ版のリーフレットが導入されたため、研究班版簡易リーフレットの継続使用を合わせ、簡易版リーフレットの効果を検討した。コロナ禍のため検診数、肝炎検査数ともに減少したが、研究班版リーフレットを継続使用した施設の受検数、受検率は、他の施設に比べて減少幅が低かった。簡易版を継続使用している施設の方が、新規導入施設よりも受検率は高かった。今年度は、コロナ禍で検診数も大きな影響を受けたため、データ収集期間の延長など結果の解釈には検討が必要と考えられた。

**A. 研究目的**

群馬県内の職域における肝炎ウイルス検査受検率と受療率向上を目的とする。

C型慢性肝炎患者は自覚症状が乏しいことから、慢性肝炎から肝硬変・肝癌への進行を阻止するためには、肝炎ウイルス検査を受け、自身の感染を知り、適切な治療を受けることが重要である。DAA治療により、通院の負担が軽減され、就労世代の患者の治療アクセスも各段に向上し、就労世代の治療も促進された。しかし、一方で、未だ肝炎検診を受けていないため自身の感染を知らないキャリアや、感染を知っていても治療を中断し根治に至っていない患者も多く存在する。

本研究では、就労世代の治療促進のため、職域の肝炎ウイルス検査の受検促進と検査陽性者の適切な治療導入促進を目的とした。加入者数の多い全国健康保険協会

（協会けんぽ）を対象に肝炎検査受検・受療の啓発活動を行った。

**B. 研究方法**

職域での肝炎ウイルス検査受検促進のため、以下の項目について啓発活動を行った。

- （1）全国健康保険協会（協会けんぽ）でのウイルス検査受検促進  
簡易リーフレットによる受検勧奨
- （2）職域への出張型肝臓病教室
- （3）職域の肝炎医療コーディネーター養成

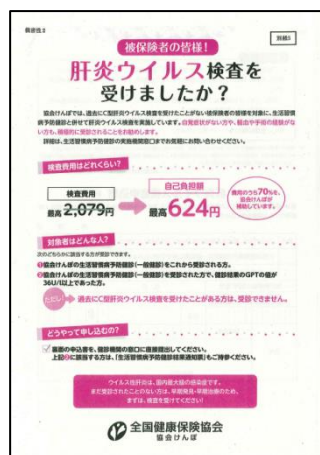
（倫理面への配慮）

個人情報に配慮し、院内倫理委員会の承認を得た。

### C. 結果及び考察

#### (1) 協会けんぽでのウイルス検査受検促進

群馬県内の協会けんぽ受託医療機関は51施設である。令和元年度は、51施設の中で33施設が研究班方式、18施設が従来型を使用した。研究班方式を導入した33施設では、受検数5.23倍（受検率4.93倍）と増加したに対し、非導入施設では受検数0.71倍（受検率0.68倍）であった。



協会けんぽにご加入の皆様へ  
**肝炎ウイルス検査実施のお知らせ**

協会けんぽの健康診断では、生活習慣病予防健診と同時に、肝炎ウイルス検査を実施しております。

通常2041円の検査が最高612(624)円で受けられますので、ぜひこの機会に受けてください。

(※) ( ) 内は消費税が10%へ変更された場合の自己負担の最高額です。

(※) 過去にC型肝炎ウイルス検査を受けたことがある方は受検できません。

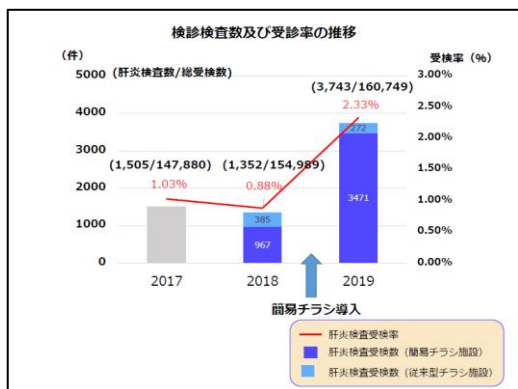
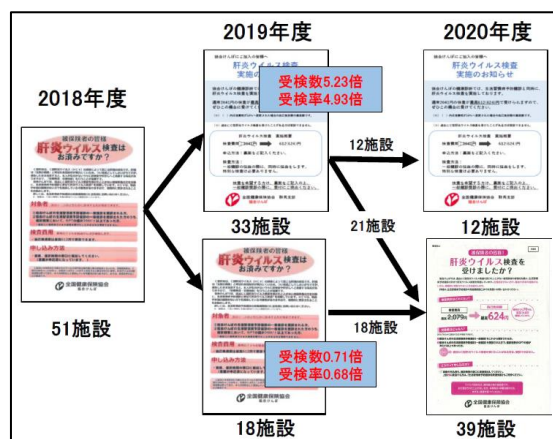
**肝炎ウイルス検査 実施概要**

検査費用：2041円 → 612(624)円  
申込方法：裏面をご記入ください。

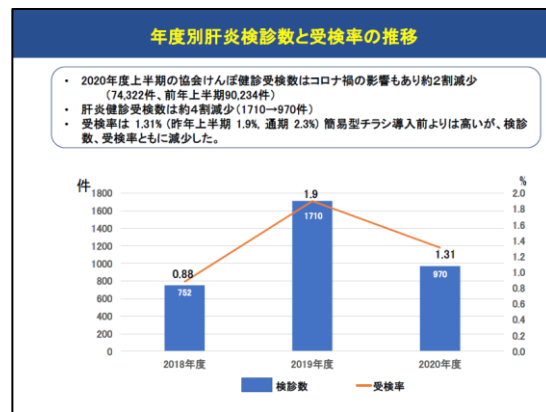
検査方法：  
一般健診の採血の際に、同時に採血をします。特別な検査は必要ありません。

検査を希望する方は、裏面をご記入の上、一般健診受診の際に、受付にご提出ください。

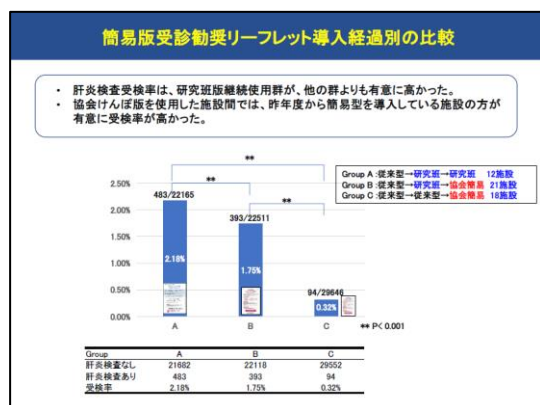
全国健康保険協会 群馬支部 協会けんぽ



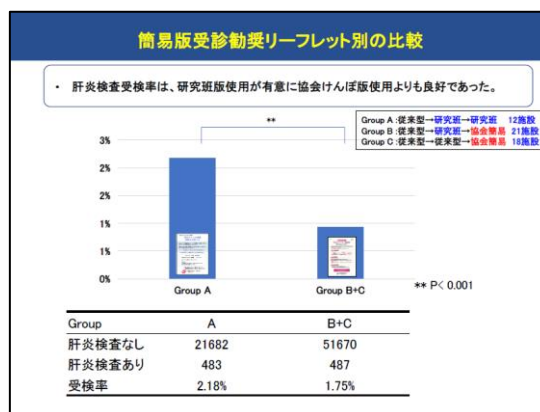
令和2年度は、協会けんぽ版簡易リーフレットが導入されたため、研究班版を継続使用した12施設 (A群)、協会けんぽ版を使用した39施設で比較した。協会けんぽ版を使用した施設は、研究班版からの切り替え21施設 (B群)、協会けんぽ従来型から簡易版への変更施設18施設 (C群) であった。



簡易リーフレット別、導入経過別の検討では、研究班版継続使用群の肝炎検査受検率は、他の群よりも有意に高かった。協会けんぽ版を使用した施設間では、昨年度から簡易型を導入している施設の方が、有意に受検率が高かった。



簡易リーフレット別では、研究班版の肝炎検査受検率は、協会けんぽ版よりも有意に高かった。



コロナ禍の検診数減少、上半期のみの比較であり、断定的なことは言えないが、研究班版を継続した群は、他の群と比較して受検率が高い可能性が示唆された。

協会けんぽ版でも、昨年から簡易リーフレットを導入している施設は、今年度新規導入施設に比べ有意に高く、簡易リーフレットの導入に加え、適切な使用方法の指導も重要である可能性が示唆された。

各施設、受検率が減少する中、研究班版継続使用群で、受検率が増加傾向を維持している施設が2施設あり、施設の取り組み姿勢も重要な可能性が示唆された。

各群の選択は、施設の任意のため選択バイアスがある点も考慮する必要があると考えられた。

## (2) 職域への出張型肝臓病教室

職域の肝炎検査に対する意識を高めるために、県内企業に出向き、出張型肝臓病教室を行っていたが、今年度はコロナ禍のため依頼がなかった。肝臓病教室をWEB開催にしたため、職域への視聴を呼び掛けた。

## (3) 職域の肝炎医療コーディネーター

肝炎医療コーディネーター研修会への参加を、企業の保健管理部門に所属する看護師、保健師へ呼びかけ、職域の肝炎医療コーディネーターを養成し、職域での発活動の必要性を説明した。令和2年度は、肝炎医療コーディネーターを174名養成した。内訳は、病院85名、クリニック33名、自治体46名、企業関連8名、患者会2名であった。職域において8名の肝炎医療コーディネーターを養成した。企業以外の肝炎医療コーディネーターにも、職域における受診勧奨の必要性を呼び掛けた。

## D. 考察

コロナ禍で検診数は、前年度と比較し減少し、肝炎検査数・受検率も減少したが、研究班版の簡易型リーフレットを継

続使用した施設は、減少幅が低かった。協会けんぽ版でも、昨年から簡易リーフレットを導入している施設は、今年度新規導入施設に比べ有意に高く、簡易リーフレットの導入に加え、適切な使用方法の指導も重要である可能性が示唆された。

## E. 結論

県内で職域での肝炎ウイルス検査受検・受療促進のための取り組みを行った。研究班版簡易型リーフレットの継続使用は有用である可能性が示唆された。

## F. 政策提言および実務活動

研究班活動に加えて、群馬大学附属病院肝疾患センター・副センター長、群馬県肝炎対策協議会委員として、群馬県保健予防課、肝炎対策協議会、肝疾患診療連携拠点病院と連携し、群馬県内の肝炎に関する総合的な施策の推進活動及び肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

### 3. その他

#### 啓発資材

- \* 群馬版簡易型受検申込書

#### 啓発活動

- \* 柿崎 暁, 戸島 洋貴: 市民公開講座企画 蘇原直人「検診をうけて、肝がん・胃がん・大腸がんをやっつけろ」

嶋田 靖「肝炎について」

令和2年7月4日～10日

主催: 日本肝臓学会 WEB 開催

- \* 柿崎 暁, 戸島 洋貴: 群馬肝炎医療コーディネーター養成研修会企画 戸島 洋貴「肝臓の検査について」 戸島 洋貴「肝臓病の食事・日常生活の注意点」

柿崎 暁「ウイルス性肝炎・肝硬変・肝臓について」

柿崎 暁「肝炎に関する県の助成制度について」

令和2年9月24日～10月26日

WEB 開催

主催: 群馬大学肝疾患センター 前橋市

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし